

成果の説明書

(氏名) 山本匡毅	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none">・本年度の担当授業は、基礎演習、初年次ゼミ、グループ研究Ⅱ、産業政策論、中小企業論、産業立地論、地域政策を学ぶ（リレー講義第13回）を担当した。・講義科目では昨年度に引き続き、配布資料を Teams から提供し、毎回の Forms によるリアクションペーパーの評価は基本的に授業前にフィードバックした。またリアクションペーパーに書かれた質問は、2 つから 3 つ程度を次の講義冒頭で説明し、受講生へフィードバックするとともに、全て質問に対しての解答を PDF 化して、Teams にて受講生全員へ返した。これらの取り組みで、受講生の講義への参加度を高めた。・講義科目では、今年度から講義の中間時間（講義開始から概ね 60 分程度のところ）にオンラインアンケート機能を使った質疑応答を実施した。これまでになかったような質問もあり、受講生の講義への参加機会の増加に努めた。・基礎演習では、山崎朗編（2019）『地域産業のイノベーションシステム』学芸出版社の輪読を中心に行った。また地域に根差した学修を進めるため、環境省「令和 4 年度教育機関と連携した地域再エネ導入促進及び地域中核人材育成研修」を得て、山形県真室川町での地域再エネを通じた地域活性化の学修と企業ヒアリングを実施した。・基礎演習の履修者のうち、希望者 3 人がたかしんビジネスプランコンテスト 2022 の応募を希望したことから、夏休みにオンラインと対面で指導を行い、最終的に最優秀賞を受賞した。当ゼミでのたかしんビジネスプランコンテスト最優秀賞は、2 年連続である。・演習Ⅰでは PBL 型の授業展開を行った。当該授業では、有限会社ツトム食品（富岡市）からテーマを頂き、課題解決の提案の検討を行った。また夏季休暇には、山形県長井市役所の協力をいただき、現地調査を行うとともに、後期の授業でゼミ生 4 チーム（1 チーム 3 人～4 人）が「第 6 回長井ビジネスチャレンジコンテスト」へ応募した。その結果、1 チームがビジネスアイデア部門賞を受賞した。・基礎演習では公務員希望者向けに東京都職員を招き、公務員志望者交流会を開催した。また演習Ⅰでは、キャリアカウンセラーの資格を持つ金融機関職員を招き、キャリアを考える場を設けた。これらの取り組みにより、ゼミ生のキャリア理解を深めた。 <p>(2) 研究活動</p> <p>①著書（大幅改訂）</p> <p>山本匡毅（2023）「第 4 章 人口移動と地域」、「第 8 章 人口減少時代の地域問題」、「第 9 章 産業集積の衰退と再生」（所収：山崎朗ほか『地域政策 [第 2 版]』中央経済社、64-79、133-148、149-164）。</p> <p>②論文</p> <p>山本匡毅（2022）「ものづくり産業の新たな動き」『日経研月報』第 528 号、48-53。 山本匡毅（2023）「地熱開発と地域産業—秋田県を事例として—」『地域政策研究』第 25 巻第 3 号、179-191。 山本匡毅（2023）「中堅表面処理メーカーの技術獲得と産学連携—関東化成工業と関東学院の事例」『産業学会研究年報』第 38 号（査読受理済、印刷中）。</p> <p>③その他著作物</p> <p>山本匡毅（2022）「2021 年学界展望 製造業」『人文地理』第 74 巻第 3 号、306-311。 山本匡毅（2022）「中小企業による取引多角化と経営戦略 —有限会社中里スプリング製作所を事例として—」機械振興協会経済研究所小論文。</p>	

山本匡毅 (2023) 「医療機器」、「航空機」、機械振興協会経済研究所『日本の機械産業 2022』、85-90、113-118.

山本匡毅 (2023) 「山形県真室川町の企業の取り組み」、機械振興協会経済研究所『脱炭素社会における地域産業の再構築－先進地域及び中小製造業の取り組みに基づいて－』(印刷中) .

山本匡毅 (2023) 「松原宏編著『新経済地理学概論』」(書評)、『産業学会研究年報』第38号(印刷中) .

④学会発表等

・山本匡毅「中堅表面処理メーカーの技術獲得と産学連携－関東化成工業と関東学院の事例－」2022年度(第60回)産業学会全国大会(2023年6月11日(土)、城西大学)

(3) 学内業務

- ・教務委員会委員
- ・学生支援委員会委員
- ・大学院改革検討委員会委員
- ・地域科学研究所所員

(4) 社会活動

①講師

・岩手県立大学総合政策学部産業講演会(2022年12月19日(月)、岩手県立大学アイーナキャンパス)「ウイズ・アフターコロナ時代におけるものづくり企業から見た医療機器産業」

②委員等

- ・一般財団法人機械振興協会経済研究所特任研究員
- ・一般財団法人機械振興協会経済研究所「産業集積活性化委員会」委員
- ・公益財団法人中部圏社会経済研究所「定量評価に基づく地域力向上研究会」委員

③学会活動

- ・産業学会理事
- ・関東都市学会理事・研究活動委員
- ・群馬地理学会理事・編集委員会委員
- ・日本都市学会論文審査委員会委員
- ・経済地理学会編集委員会幹事
- ・地域デザイン学会地域政策フォーラム事務局長

④産学官連携

- ・高崎市商工観光部からの依頼を受け、市内企業の事業展開について助言を行った。
- ・市内企業の希望を受けて、山形県内航空機関連企業3社とのマッチングを行った。
- ・市内企業と岩手県企業とのマッチングを行った。

2 その他の事項

特になし

3 次年度以降の計画・抱負

・教育：基礎演習の有志によるたかしんビジネスプランコンテストへの応募を継続し、可能であれば、最優秀賞3連覇を目指したい。演習Ⅰでは地方自治体と連携し、課題解決型の研究を行う。演習Ⅱでは水準の高い卒業論文の作成を目指すとともに、引き続き、産学連携プロジェクトのまとめを行う。講義科目ではオンラインを活用した双方向性を更に強化し、受講生の理解が深まり、満足度が高くなるように努める。

・研究：2023年度は、継続となる「国土周辺地域における航空宇宙産業の立地と再編に関する研究」(科研費代表・共同研究、基盤研究(C))、「計量書誌学的手法を応用したイノベーションの地域学の試み」(科研費分担・共同研究、挑戦的研究(萌芽))の研究を進める。昨年度は後者の研究成果に留まったので、今年度は両方の研究で成果をまとめていきたい。また2023年度に新規採択となった「サプライチェーンの強靱性と産業地域のレジリエンスに関する地理学的研究」(科研費分担・共同研究、基盤研究(B))にも注力していく所存である。